



令和4年度土木学会選奨土木遺産に大分県・福岡県が管理する県道中津吉富線の県境を跨ぐ『山国橋』が認定され、その認定書及び銘板の贈呈式が行われました。

選奨土木遺産は、公益財団法人土木学会が日本に現存する重要な土木遺産を対象に、その技術的価値、社会的価値および文化的価値を評価し認定しており、令和4年度は全国で23件、九州からは2件（『山国橋』及び『赤尾木港の岸岐と築島』）が認定されました。

山国橋は、昭和初期に建設されたRC造の橋長213.9mの長大橋であり、ゲルバー桁や二穴式の煉瓦積み橋脚を有する貴重な地域の土木遺産であることから、令和4年度土木学会選奨土木遺産に認定されました。

日時

令和5年4月27日（木）15:00～

場所

中津総合庁舎3F 大会議室

内容

選奨土木遺産認定書及び銘板の贈呈式

## 【贈呈式の様子】

